

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000317		
法人名	有限会社 松井		
事業所名	グループホーム レジデンスポピー(ポピー)		
所在地	小樽市入船4丁目22番3号		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000317-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成 25年 3月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは認知症高齢者を対象とした共同生活の場です。前身の小規模高齢者住宅から築いた協力病院との連携により、往診や栄養指導、日常生活に合わせたリハビリ指導など、健康管理のほかにおいても安心して生活を送っていただく事ができます。又、ホーム主催による地域交流祭の開催などを通じて、地域との密接な交流をもとにした認知症生活介護に事業重点をおいて運営を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から11年、チームケアの徹底と利用者本位のケアに意欲的に取り組み、実践に繋げているホームです。運営者の利用者に寄せる深い思いに職員が共感しつつ、利用者一人ひとりがそれぞれに有する能力を発揮できる支援に努めています。一昨年、居室を増築して、厨房やリビング等の共有部分を改装し、以前に比して明るく開放的なスペースが確保されています。居室には浴室、トイレが設置されており、利用者のプライバシーに配慮されています。利用前には入浴に積極的でなかった方でも、職員の関わりや個浴という環境から、入浴が楽しみになるという変化に繋がるケースもあります。手厚い人員配置や協力医療機関との密な連携態勢は利用者、家族の安心に繋がっています。ホーム主催の夏祭りは、利用者だけでなく地域住民や他ホームの利用者も楽しみにする名物行事となっており、地域との連携強化という側面と同時に地域貢献という側面を担う行事となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や自然と触れ合える、あたたかい雰囲気の中でその人らしい生活が出来るよう理念を作り上げ日々実践に繋げている。また毎朝職員は理念を復唱し、日々確認している。	職員は、利用者に寄り添いながら、地域の中でその人らしい暮らしができるよう理念や行動指針に沿った介護実践に取り組んでいます。毎朝ネームプレート裏面の理念を復唱し共有や浸透を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭りには近隣の方や他のグループホームもお誘いし、交流を深めている。町内会の会合や、行事には職員が参加している。	町内会に加入し、職員が敬老会等に参加しています。ホーム主催の夏祭りは近隣住民や他のホーム利用者が参加する町内の一大イベントとなっています。散歩の折に近隣からお花を頂くなど、日常的な交流もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも介護相談やアドバイスを出来るよう、地域との交流の際に介護相談を受けたり電話での相談も随時受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族、医療機関、地域住民代表、行政職員の参加を頂き年に6回運営推進委員会を開催し、ホーム運営報告、避難訓練、意見交換など会議で話し合いサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議は家族、民生委員、町内会長、医療機関職員、行政職員の参加を得て定期的に開催しています。運営状況や行事の報告に加えて、防災やヒヤリハット事例について意見交換し、サービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当窓口での相談やグループ協会で行政関係者と情報を共有し、適切な助言や提案を頂きホームの向上に努めている。	市の担当窓口とはグループホーム協議会や集団指導で情報の共有や助言をもらう他、電話等で連絡を密に取り、良好な協力関係を築いています。保護課職員との連携も図られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部、外部研修で、拘束に繋がる具体例や弊害について理解を深め、身体拘束防止委員会を設け、身体拘束をしないケアの周知徹底を図っている。	マニュアルを作成して職員の意識を高めると共に、内・外部の研修受講により身体拘束に関する理解、新たな知見の習得に努めています。職員は身体拘束がもたらす弊害を理解しており、身体拘束のないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部、外部研修で、虐待に繋がる具体例を通し知識の向上を図り、今後も事業所内での虐待はないよう防止に努め普段から言葉遣いや態度などに気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度が必要な利用者様は現在はいないが制度が必要な利用者様には、活用出来るよう支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書(重要事項取り扱い書)と口頭で十分に説明し理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設け、利用者様の意見を頂いたり、ご家族の面会時や電話でコミュニケーションを図り要望を把握出来るよう努めている。	面会時や電話連絡時に直接要望等を伺う他、面会簿に設けた気づきの記入欄からも家族の思いを拾い上げ、運営に活かしています。	運営者は家族が意見や要望を言い出しにくい心情を察しており、意見箱の活用やアンケートなど、意見聴取への更なる工夫を検討していますので、その実現に期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案を聞き、課題を受け止め、就業環境の整備、改善に努めている。	管理者は全体会議やミーティング、日々の申し送りの際に、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。利用者への支援方法だけでなく、人員配置や処遇に関して自由に意見を出せる環境作りに取り組み、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件を整備し、能力に応じて向上心がもてるよう適材適所に配置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は研修情報を提供し希望や職制に応じて随時参加しており、内部研修において、外部研修で得た知識を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会えお通じての情報交換の他諸行事を通じてグループホームの相互訪問もあり同業者との交流が進められている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で本人の抱えている不安や求めている事などを聴き取り心身状態や意志を確りと把握し受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談から不安な事や求めている事などを聞き受け止める努力をしている。また、新たな要望があった場合は必ず時間を取り話し合い出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により体調に応じて専門家の受診や主治医による往診の依頼の他状態に合わせ福祉用具の購入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員で一緒に過ごす時間を大切にし、調理法や豆知識なども教えて頂く事もあり、お互いに支えあう関係を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	課題が生まれた時には本人、家族の意見を聞きながら本人の気持ちをご家族に伝えたり一緒に考え、本人の希望に添えるような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が気軽に来所できる雰囲気作りをしている。昔馴染みのスーパーや理美容院には希望に合わせてられるよう本人の生活習慣を尊重している。	利用者の希望に応じて、図書館や馴染みのスーパー、理美容院に同行しています。家族との墓参りや外出、友人・知人の訪問受け入れなど、これまでの習慣や関係が継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通し同じ時間を共有したり言語が不自由な利用者様には職員が間に入りコミュニケーションが取れるよう支援している。食事の準備や後方付け等は利用者が協力して職員と共に行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られたり、入院し退居された方への面会やお見舞い等で付き合いは継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中や表情から利用者の思いを把握したり、生活歴や家族からの情報を参考にし利用者の視点で検討している。	本人の希望は日々声かけで確認し、意向の把握に努めています。意思疎通が困難な場合はご家族からの情報や生活歴を参考にし本人本意の過ごし方を支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者とコミュニケーションを取り生活歴を把握するようにしている。家族からも情報が得られるようお話しする機会を取れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し本人の希望する生活を支援する他に本人が出来そうな事等職員間で話し合い新しい事に挑戦出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は家族や本人の他主治医とも話し合いながらアセスメントを行いそれを基に原案を作成。3ヶ月毎や緊急時には随時見直している。	介護計画は家族や本人の意向、主治医の意見をもとに職員全員で話し合っ作成しています。生活アセスメントシートを活用して、介護計画に沿ったモニタリングを毎日行い、3カ月毎に作成する介護計画に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の生活アセスメントの様子、実践、結果、気づきを記録する事で、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応出来る様、本人、家族との話し合いや職員でのカンファレンスで、意見を出し合い柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人と地域との接点を見出し周辺施設への働きかけやボランティアの協力を働きかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療による訪問診療の他かかりつけ医の受診も職員が付き添って送迎しており、内容は関係者の共有としている。	2週に1度の協力医による訪問診療の他、これまでのかかりつけ医への受診に同行しています。眼科、整形外科、脳外科等内科以外の受診にも同行し、適切な医療が受けられるように支援し、情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関があり健康管理や医療面での相談や助言のもと対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換、回復状況を把握しご家族との話し合いを設けホーム対応可能な段階で早く退院出来るよう努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針を家族に説明し、家族、医師との連携を図り、暮らしの維持に努めている。現在ターミナルケアは行っていないが、家族、医師、関係者との連携を強化し、方針の共有を図っている。	利用時に重度化及び終末期における対応についてホームの対応を説明し、同意書を取り交わしています。必要に応じて医師、家族、関係者と話し合い、方針の共有を図りながら連携して支援にあたっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行い、定期的に再度確認し合い実践力を身につける様努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、消防署の協力のもと年2回消防訓練を行い、近隣の方が駆けつけてくれたときに、ゼッケンに役割カードをつけて渡し、混乱無く協力して頂けるよう工夫している。	災害時マニュアルを作成し、年2回消防立ち会いのもと、夜間想定避難訓練を行っています。職員と近隣住民が色の異なるタオルを首に巻き、利用者誘導時の役割分担を明確にする工夫をしています。	火災のみならず、地震や停電時への備えや対策の確認、並びに具体的場面を想定した避難訓練への取り組みを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を把握し、個別に対応しており、尊厳やプライバシーに配慮しており、自然な形での支援を心掛けている。	職員は利用者の人格を尊重し、一人ひとりに応じた接遇に努めています。職員同士が尊厳を損ねる言葉かけになっていないか確認しあう等、より良い接遇に真摯に取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の理解力に合わせ説明を短くしたり本人のわかる言葉に置き換えて説明している。自分で決める場面作りご本人の意思や希望を確認している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースや気持ちを大切に、日々の生活が安心して楽しく過せるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	月に1回ホームで美容師にカットして頂いている。希望により馴染みの美容室でカット出来る様支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	彩りや季節感を盛り込んだ内容にしている。夏は畑で取れた野菜が食卓に並ぶ事もある。利用者の希望も取り入れメニュー作りしている。	利用者の力量に応じて、盛りつけや下ごしらえ、後片付けなどを職員とともに行っています。プランターで採れた野菜を味わったり、利用者の好みを献立に反映しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、水分量は個人別にチェックし食事は栄養士のカロリー計算の下、バランスを考えながら食事作りに取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて嗽、歯磨き、義歯洗浄を行う場合によっては歯科医に往診して頂き磨き方の指導等行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、一人一人に合わせた声掛けや誘導で、羞恥心に配慮したトイレでの排泄支援に努めている。	個別の排泄チェック表で、利用者個々の排泄パターンを把握しています。職員は居室のトイレやベッド脇のポータブルトイレで排泄できるよう羞恥心に配慮した声掛けや時間誘導で排泄の支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便間隔を把握し食物繊維の多い食材、水分は補給、適度な運動など服薬だけに頼らず可能な限り自然便に繋げる様に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の健康状態を確認しながら、週2回を原則として入浴を実施している。また、入浴剤を使用し、温泉の雰囲気を楽しめるようにしている。	個々の居室にあるユニットバスで原則週2回、全介助の利用者を含む全利用者が浴槽に入って入浴できるように支援しています。必要に応じて手すりを設置して安全に配慮すると共に、入浴剤で利用者の入浴意欲を高めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も本人の好きな時に休んでもらい夜間眠れない時は温かい飲み物を提供したり職員と落ち着くまで会話をするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更や追加がある場合は申し送り等で職員全員が確認、把握出来るようにしている。処方箋はファイルに綴りすぐに確認出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や趣味、得意な事を活かせるよう支援している。手芸やゲーム、音楽療法などの楽しみも行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬以外は日常的に散歩へ出かけたり希望によっては買い物にも出掛けている。四季折々の外出行事で外気に触れ気分転換出来る機会を作っている。市内の水族館等も利用し、海に住む生き物と触れ合う機会も作っている。	冬期間は大型スーパーに出掛ける程度ですが、気候の良い時期には、可能な限り散歩や買い物に出掛けています。季節毎の外出行事やホームの夏祭り、家族とお墓参りなど、できるだけ戸外に出掛けられるように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や身体状況等をご家族に理解して頂き、買い物の際には金額を決めて所持し、自分でお金を支払う事が出来るよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける利用者は家族へ手作りの葉書に一言添えて出したり電話等でお話したい希望がある時は随時支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員と一緒に作成した季節感のある作品や装飾品をリビングに飾り好きな音楽を聴いたり、DVD等を見ながらゆったりとした時間を過せるよう工夫している。	共用空間は白を基調とした清潔感漂うスペースとなっており、掃除も行き届いています。リビングには利用者と職員が製作した満開の桜が飾られ、春めいた季節感を醸し出しています。利用者は図書スペースで気に入りの本を読んだり、リビングでDVDを楽しんだりしながらゆったり過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大型テレビやソファがあり自由にテレビを観たりお茶を飲みながら談話出来る。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は馴染みの調度品やテレビ等自由に持ち込み居心地良く過されており、空調にも配慮し、利用以前の暮らしが継続出来る様支援している。	居室にはミニキッチン（洗面台として使用）、トイレ、浴室が設置され収納スペースも十分あり、整頓されています。利用者は馴染みの家具や生活用品を自由に持ち込み、それぞれが安心して過ごせる居室となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見慣れた環境を変えず混乱しないよう配慮し残存能力を見極めて1人ひとりおわかる力を活かして自立した生活が送れる様に創意工夫をしている。			